

令和4年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会

※法人ロゴマーク コンセプト

社会の中には十人十色の人がいて、 それぞれに役割があって、時には誰か を支えたり、時には誰かに支えられた り、そんな様子を「ともいき」の文 字で表現しました。

◇法人理念 「ともにいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

- ・人を大切にします ひとりの「人」として向き合うこと。 相手の良さを知り、自分の良さを知ること。 相手から学び続けること。
- ・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。 仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。 行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。 法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。 先が見通せることで保護者に安心感を与えること。 できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。 はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠/井布施高田1034番地3 FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名 監事:2名 評議員:7名

3. 総 括

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける1年となりました。時期は様々ではありますが、職員、利用者含めて、複数名が罹患し、基準に基づいて個別の休暇となりましたが、令和3年度にあった事業に休止にまでは至りませんでした。

令和5年度に向けては、明るい兆しも見え始めており、感染対策についてはマニュアルの見直し、 対策の継続を行いながら、活動の充実を図っていきます。

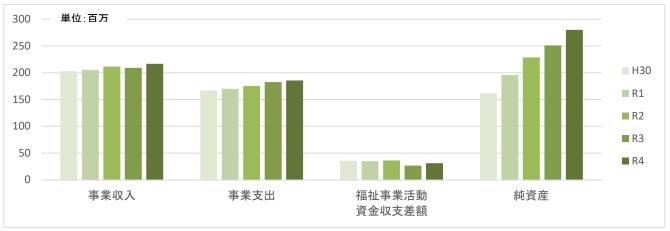
年度末での職員数は42人(うち育児休暇中2人、退職予定者数1人)で昨年比1減となっていますが、4月に2名の採用が決まっています。年度途中での退職者は2人おり、人材の定着に向けては課題も残ります。「人を大切に」という基本姿勢のもと、研修を通してキャリア形成を意識できるような取り組みが必要になってきています。

社会福祉充実残額に伴う社会福祉充実計画については、令和4年度に隣接地の土地を計画通りに取得しました。令和5年度は社会福祉施設等整備補助金の申請を行い、採択されれば、令和6年度に建物の着工に入る予定となっています。

4. 経 営 社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	H30	R1	R2	R3	R4	
事業収入	202,733	205,186	211,619	208,991	216,718	104%
事業支出	167,024	170,101	175,419	182,396	185,459	102%
(うち人件費)	128,596	132,079	137,159	145,463	148,941	102%
人件費率	63.4%	64.4%	64.8%	69.6%	68.7%	_
福祉事業活動 資金収支差額	35,709	35,085	36,200	26,595	31,259	118%
施設整備·財務 活動収支差額	-26,351	-16,944	-24,687	-14,501	-49,277	_
当期収支差額	9,358	18,141	11,513	12,094	-18,018	_
純資産	161,294	195,618	228,509	250,884	279,867	



事業収入については、前年度比+4%となりました。主には処遇改善に関わる臨時特例交付金やベースアップ加算による障害福祉サービス等事業収益の増加、また稼働率の回復に伴う増加によるものとなります。

事業支出については、ほぼ予算通りに執行しました。人件費については、ベースアップとともに増加、事業費事務費に関しては、大きな増減はありませんでした。燃料費や水道光熱水費については、大幅な値上がりとともに支出の増加がありますが、今年度に関しては、県の社会福祉施設等価格

高騰対策支援金660、000円の補助を受けることができました。

事業活動における資金収支差額については、上半期の段階では、陽性者、濃厚接触者の判明により、利用のキャンセルが相次ぎ、稼働率が落ち込んだことから前年度比-8%となっていましたが、下半期にかけ回復基調となり、前年度比ではありますが、+18%となっています。

当期における資金収支差額については、土地取得費用が計上されているため、大きなマイナスとなっています。

コロナ前の水準まではまだ遠いですが、各管理者が、サービスの質はもちろんのこと、経営面にも 意識を向けてきている成果だと思われます。

5. 法人内会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	4	 ・R4/5/23 監事監査 ・R4/6/2 令和3年度事業報告、計算書類、財産目録の承認 ・R4/11/1 書面決議 定款の一部変更(土地取得に伴う基本財産の増加) ・R5/3/9 令和5年度事業計画、予算
評議員会	2	・R4/6/20 令和3年度事業報告及び決算報告 ・R4/11/22 書面決議 定款の一部変更(土地取得に伴う基本財産の増加)
運営会議	月1回	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	・人材育成部会・安全衛生部会・リスクマネジメント部会

6. 諸会議への参加

- •長野県自立支援協議会 就労支援部会
- ・長野市ふくしネット(しごと部会、かつどう部会、こども部会、相談支援事業所連絡会)
- ・千曲坂城福祉ネット(しごと部会)
- ・須高自立支援協議会(しごと部会)

7. 苦情受付

件数	1件
----	----

主な内容、分析

【苦情の分類】

保護者の送迎時に大人の利用者の方が蹴ろうとしてきたことがあり、その際に近くに職員がいなかったことについて。

職員同士、お互いの動きの把握や利用者への対応等に関して気になることがあれば、指摘ではなく支援者として成長することができるような声掛けや検討を行い、風通しの良い法人を目指し、再発の防止に努めます。

8. 虐待事案

件数 0件	
-------	--

令和4年度より、虐待防止研修の実施、虐待防止委員会及び虐待防止責任者の設置が義務化された中で、虐待防止マニュアルの改定を行い、職員への周知と内容につい研修を実施しました。

運営会議内にて虐待防止委員会を実施し、虐待事案についての周知・話し合いを行い、虐待防止に向けた取り組みを行いました。

令和4年度	要 業務報告	社会福祉法人ともいき会
部会名		権利擁護部会
業務目的	営を進めます。 ○権利擁護部会で	質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に掌握検証し、適正な業務運では、障害者の虐待防止の啓発及び研修を進め、障害者の人権の尊重や権利ること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指しす。

○6月職員研修

令和4年度より、虐待防止委員会の設置、運営基準への虐待に関する項目の記述等義務化となることから、虐待防止マニュアルの見直しをし、同マニュアルの周知及び内容をかみ砕いた説明を研修会として行いました。内容として、「虐待とは何か」の基本的なことから、通報に関して具体的な手順、流れについて説明をしました。1度だけの説明ではなく、継続して意識していくことができるように引き続き随時研修会や啓発活動として周知・確認を行っていきたいです。

務

業

実

○部会員による外部研修への参加(令和4年7月12日、12月21日)

権利擁護研修会への参加。部会員全員でオンラインによる参加をし、部会員の自己研鑽に努めました。

施

○啓発活動に関して

昨年度のチェックリストに続き、自己の振り返りだけではなく、他者の支援への気づきを考える機会として支援の振り返りシートをR5年2月に実施しました。他者の支援の良いところ、気になるところが挙がる中で、次年度には、アンケートの結果について、R5年度の部会でまとめて職員へフィードバックしていきます。

容

○身体拘束適正化マニュアルの見直し・作成

令和5年度より、虐待防止・身体拘束適正化のための、身体拘束適正化委員会の設置及び指針の策定の義務化に伴い、ともいき会の身体拘束適正化マニュアルの見直し・作成をしました。マニュアルに関しては、令和5年度の法人内職員全体研修にて、勉強会を実施予定です。

	月	取り組み	月	取り組み
	4月	職員研修に向けて 資料作成①「障害者虐待防止マニュアルにつ いて」	10月	身体拘束適正化マニュアルの見直し
年	5月	職員研修に向けて 資料作成②「障害者虐待防止マニュアルにつ いて」	11月	身体拘束適正化マニュアルの作成
間	6月	職員研修実施	12月	部会員:権利擁護研修への参加職員向け、支援の振り返りアンケートの作成
取組	7月	職員研修実施 部会員:権利擁護研修への参加	1月	本年度活動振り返り 次年度事業計画
	8月		2月	職員向け、支援の振り返りアンケートの実施
	9月	職員研修の振り返り 次年度に向けて	3月	アンケートのまとめ 次年度の研修に向けて

令和4年	度 業務報告	社会福祉法人ともいき会
部会名		安全衛生部会
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ます。 ○各部署に適宜情報発信 スキルアップを図ります。	の向上に向けて、法人内の業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進め ・助言が出来るように、部会員一人ひとりが防災、感染症等について知識を深め で安心して利用できるように法人設備の管理を行います。

○防災訓練の実施

〈地震⇒火災〉

- ·6月8日(水)AM:相談·児童·放課後 PM:放課後
- •6月8日(木)就労
- ・6月29日(水)キャリ・ナカポツ

〈水害〉…各避難場所への避難

- •10月5日(水)生活
- •10月8日(土)就労
- •10月15日(土)放課後
- •10月24日(月)児童
- ・11月30日(水)キャリ・ナカポツ
- 〈火災〉…本部は消防署の立ち合い有り。
- ・11月30日(水)就労・キャリ・ナカポツ
- •12月7日(水)AM相談·児童·生活 PM放課後

○法人設備の管理(安全点検) 務

·5月·11月実施。

実

○啓発活動

- ・感染症状況の把握、注意喚起・対策の呼びかけ
- 施 |・安全点検の際、救急セット・ノロウィルス対策セットの点検・補充も併せて実施。
 - ・インフルエンザ予防接種の推奨。
- 内 ・安全運転啓発として、70歳継続雇用研修(生活介護ドライバー)の推奨・実施。

容 | ○福利厚生 ・職員に予防接種費用2,000円の補助を実施。

○職員のスキルアップ

- ·防災訓練(地震·火災·水害)
- ·応急手当普及員研修参加
- ・応急手当普及員研修に参加した部会員による、法人全体研修「AEDの使用方法の確認や応急処置についての具体 的方法について」 実技(心肺蘇生法)
- ・外部研修参加:長野市障害福祉ネット「個別避難計画について」

○研究活動

•非常災害対応資料・災害時緊急連絡網の整備・作成

○今後の検討事項

・AEDの使用方法の確認や応急処置についての具体的方法、新人職員への周知

	月	取り組み	月	取り組み
年	4月	・年間計画の確認 ・外部研修への参加(応急手当普及員)	10月	・70歳継続雇用者研修(ドライバー研修)の呼びかけ ・避難訓練実施(水害)
間	5月	・法人設備安全点検、報告書作成 ・避難訓練計画	11月	・避難訓練振り返り・避難訓練計画・実施(火災) ・法人設備安全点検、報告書作成
	6月	・避難訓練実施(地震⇒火災) ・法人研修 企画・検討	12月	・避難訓練振り返り・感染症啓発(予防接種の推奨) ・外部研修への参加(長野市障害ふくしネット)
取	7月	・避難訓練振り返り・法人全体研修	1月	•感染症啓発
組	8月	・法人全体研修 振り返り	2月	•次年度事業計画作成
	9月	・避難訓練計画	3月	・今年度の活動まとめ ・事業報告の作成

令和4年月	業務報告	社会福祉法人ともいき会
部会名		リスクマネジメント部会
SII = 1 11	す	向上に向けて、法人業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めま 「、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利 と的確なサービスの実施に努めることを目的とします。

○各部署におけるリスクマネジメントの実施と把握

- ・ヒヤリハット: 啓発を継続して行うことで、記録用紙への記入は定着しつつあります。また、同じような事例が多く出ていることから、アセスメントと対策の重要性を感じました。今後は、スタッフ間で主体的に声が上がるような雰囲気作りやアセスメントを丁寧に行い、事故に繋がらないよう意識を高めていきます。
- ・事故報告書、モニタリング:事故発生後に原因分析、対策を検討することで、様々な視点や気付きがあり、 意識の向上に繋がりました。引き続き、意識を継続し、対策の日常化できるよう取り組んでいきます。

○定期部会における現状把握と情報共有

- 業 ・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。

実

○部会員によるリスクマネジメントの学習

- 施 ▶・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順を再度年度初めに確認を行いました。
- ・「個人情報保護規程」についての理解を深める研修を行いました。かみ砕いて分かりやすく伝えることで、 大人 業務と照らし合わせて考えることができ、個人情報を取り扱う責任を意識する機会となりました。

容

○リスクマネジメントにおける啓発活動

- ・管理者と部会員の間で連携が取れるようになり、継続的な啓発活動もありヒヤリハットの報告も定着しています。月によりばらつきもある為、今後も継続した啓発を行っていきます。
- ・ミーティングや日常的な声掛けをすることでリスクマネジメントに対する意識の向上に繋がりました。

○個人情報保護に対する予防と対策

- ・個人情報保護規程の見直しに向けて部会員で原案の内容について理解を深めることができました。
- ・今年度は部会内で理解を深め、来年度以降に原案の見直しと法人全体への周知を検討していきます。 職員の共通理解を進めていけるよう順を追って進めていきます。

	月	取り組み	月	取り組み
	4月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 今年度の活動について 個人情報保護について学習	10月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 職員研修の内容検討 職員研修の実施
年	5月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 個人情報保護について学習	11月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の実施 職員研修の振り返り
間	6月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 個人情報保護について学習	12月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 次年度に向けて方向性の検討
取組組	7月		1月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 次年度、部会活動計画の検討 車内への閉じ込め防止について確認
	8月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討 人材育成部会より、研修実施方法の確認	2月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 年間の振り返り、次年度に向けての検討
	9月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討	3月	

事故報告分類•分析

1.事故報告月別件数

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童						3			1				4
放課後			1	1		1				1			4
キャリサポ								1				1	2
生活		1	1	2					1				5
相談						1							1
就労				1			1		1				3
就業•生活			1					·					1
件数	0	1	3	4	0	5	1	1	3	1	0	1	20

2.分類別事故報告件数

2.77 /8/71 T PV TV II I	, ,,,												
分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
怪我													0
熱傷													0
誤嚥													0
異食													0
薬													0
対人			1	2			1						4
物損		1	1			1			2				5
紛失						2							2
車輌関係				1						1			2
情報管理			1			1							2
その他				1		1		1	1			1	5

その他内訳 ・納品忘れ・ノート入れ間違い・警備セット忘れ

3.内容、分析

R3事故報告件数		年間件数 18 件	R3ヒヤリハット	年間件数 :	381 件
R4事故報告件数		年間件数 20件	R4ヒヤリハット	年間件数 :	358 件
部署別内訳					
発達児童	4 件	紛失、連絡ノート入れ間	引違い、実績入力ミス、押し入れた		
発達放課後	4 件	対人怪我2件、物損、	車輛物損		
キャリサポ	2 件	送迎漏れ、警備セット	忘れ		
生活	5 件	物損3、対人怪我、車	輛物損		
相談	1 件	紛失			
就労	3 件	納品忘れ、対人怪我、	物損怪我		
就業·生活	1 件	携帯忘れ			

○分析

- ・事故報告年間件20件のうち、4件が対人関係による怪我で最多となっています。車輛物損関係の事故報告は今年度2件でした。運転時における安全意識については継続し部会、部署においても啓発を続けていきます。
- ・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告はありませんでした。
- ・発生した事故に関しては事故報告書として作成し、発生状況、要因暫定対策等を確認しリスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。
- ・ヒヤリハットの年間件数は358件でした。内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。内容、対策の共有と記入に対する意識継続の為に、啓発を続けていきます。

令和 4年度	業務報告	社会福祉法人ともいき会
部会名		人材育成部会
₩ ₹\r □ \h	○障害福祉サービスの質の向上に向け 業務運営を進めます。	て、法人としての業務状況を常に把握検証し、適正な
業務目的	○法人職員の研修事業を中心とし、質の 用者や法人に貢献できるようスタッフの	D向上のために要求されるスキルを身につけると共に利 育成を目指していきます。

○法人内研修

(職員全体研修)

【実施期間】①権利擁護部会:6月~7月(3回)、②安全衛生部会:7月(2回)、③リスクマネジメント部会:10月~11月(各部署)、④人材育成部会:R5,2月(2回)

【実施内容】人材育成部会:チームビルディング『ストロータワー』を実施。 小グループに分かれ、チームでひとつの目標に向かって話し合い、お互いを認め合いながら結束を強めていくことを学びました。

*コロナ禍において、全体集合型ではなく部署ごとや午前・午後などでグループ分けをして実施することが定着し多くの職員が出席することが出来ています。今年度は、各部会に計画~運営まで取りまとめてもらい、スムーズに研修が行われました。

*令和5年3月 新人職員による『1年を振り返っての発表』、『良いところ表彰』を実施しました。 各部署で開催した模様を撮影し、後日全部署のミーティング等で観て頂きました。

(法人全体研修)

業

貉

実

施

内

容

・外部講師を招いての研修(1回)

○ R4年 12月15日(木)16:00~17:15 【講師】医療法人 川中島Fメンタルクリニック 施設長 佐々木 尚子 氏

【研修内容】『職員のメンタルヘルスについて』

・内部講師による研修(1回)

○ 令和4年11月(各部署にて)【講師】岸本看護師(生活所属)

【研修内容】 『岸本看護師に聞いてみよう! 』~ファーストエイド、ケガや病気への対処法など~

(新人職員に向けての研修)

① 新人職員研修(4月、1月) 4名 法人の理念や各センターの役割について学びました。

② 新人職員及び2年目以降の職員へのOJT研修(随時予定) 【対象者】新人職員4名、2年目以降の職員4名実施しました。

(各種研修)

- 職員面談 年3回(5月、10月、2月)実施しました。
- ② 派遣研修及びリモート研修
 - ・圏域内や県外の研修、セミナーへの参加(派遣型、リモート参加等)、資格更新研修等受講県外:3名、集合型:10名、県内外(オンライン):23名、資格更新研修(オンライン):6名 計42名受講

(その他)

- ①ともいき会 ロゴマーク作成 : 職員から応募があった作品から選出、投票により決定しました。 ②広報誌発行 : 内部向け:1回、外部向け:1回
- *12月に法人の広報誌"ウィズYOU"第1号を発行。地区回覧、行政や医療機関、特別支援学校、取引 先企業、関係機関に配布しました。

	月	取り組み	月	取り組み
	4月	・部会の目的、業務内容の確認。 ・研修把握、法人全体・派遣研修、職員面談 について	10月	・第3回職員研修(10月~11月)・職員面談
年	5月	•職員OJT研修計画、調整 •法人全体研修①(外部講師)計画 •職員面談	11月	・法人全体研修①(内部講師) ・福祉の現場説明会
間	6月	第1回職員研修(6月~7月)職員OJT研修(随時)	12月	・第4回職員研修 ・法人全体研修②(外部講師)
取 	7月	- 第2回職員研修	1月	・第4回職員研修・部会振り返り、次年度活動計画作成
/\rd.	8月	・職員研修、派遣研修等 中間まとめ ・福祉の現場説明会	2月	・職員面談・次年度部会活動計画の作成
	9月		3月	・新人発表+良いところ表彰

研修の状況

○外部研修

		中 泰	1 ¥/-	д ф
月	人数	内 容	人数	内 容
	(オンライン) 1	NPO法人全国ジョブコーチ連絡協議 会設立記念セミナー	(県外) 1	令和4年度障害者就業・生活支援センター就業支援スキル向上研修(前期)
6月	1	応急手当普及員講習	1	令和4年度家族・支援者養成 基礎講座
	(オンライン) 1	サビ管・児発管初任者研修		
7月	(オンライン) 5	第1回長野市虐待防止·権利擁護研 修会	(オンライン) 1	強度行動障がい支援者養成研修(基礎研 修)
8月	(オンライン) 1	令和4年度思春期精神保健研修会		
10月	(オンライン) 2	第1回長野市相談支援専門員 スキルアップ研修	(県外) 1	令和4年度障害者就業・生活支援センター就 業支援スキル向上研修(後期)
11月	(オンライン) 7	令和4年度障がい者虐待防止·権利 擁護研修	1	高次脳機能障害者の職業理解と職業リハビ リテーション支援に関する研究
12月	1	職場のおけるメンタルヘルス対策	(オンライン) 1	県政タウンミーティング(不登校当事者・支援 者とのディスカッション)
1277	(オンライン) 3	サビ管・児発管更新研修	(オンライン) 2	相談支援従事者現任研修
R5,1月	(オンライン) 1	令和4年度就業生活支援基礎講座 よろずや相談室開設	2	福岡塾アディション『子どもの時期をどうささえるか』
	3	長野市障害福祉ネット 第1回全体協議会		
2月	1	『今、なぜレジリエンスなのか』	(県外) 1	第9回障害者就業・生活支援事業をより深く 考えるための全国フォーラム
273	(オンライン) 1	『障がい者雇用ってDoですか?』	(オンライン) 1	『企業の声を聞いて、Doする私たち?』
3月	(オンライン) 2	第10回就労移行支援事業の在り方 を学ぶ研修会『地域連携』		
│ ○内部研(修			
4月	3	新人研修		
6月	全職員	全体研修『虐待防止マニュアルに関する 勉強会』	4	新人スタッフ OJT研修
071	全職員	職員面談①		
7月	全職員	全体研修『AEDの使用方法確認・応 急処置、実技』		
	5	スタッフ OJT研修	全職員	職員面談②
10月~	全職員	全体研修『個人情報保護規定につい て知ろう!』		•
11月	全職員	職員研修『岸本看護師に聞いてみよう!』		
12月	全職員	職員研修『職員のメンタルヘルス』		
1月	全職員	全体研修『チームビルディング』	1	新人研修
2月	全職員	職員面談③		
3月	4	新人発表・よいところ表彰		

1	事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。
2	事業内容	障害児通所支援 〇児童発達支援
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00~18:00 サービス提供時間9:00~15:00
4	職員体制	管理者1人、児童発達支援管理責任者1人、保育士3人、指導員2人

事業目標	実績報告	実施月
	○保護者の想いをお聴きし本人の様子と照らし合わせながら、スモールステップを踏んで行くことが出来るような計画を作成し支援しました。 ・日々、利用者の様子を記録し振り返り、保護者の方の要望に基づき必要に応じて計画の見直しや検討を行いました。	6ヵ月ごと (随時)
1. 一人ひとりの得意なこと、 できる力、可能性を伸ばして いきます。	○本人の意欲や興味関心に着目し、「できた!」という自信を高め、新たな事柄へ挑戦する意欲を育みました。 ・朝の会の課題は、本人が出来るものや出来そうなものを基本に、アセスメントを取りながらステップアップが出来るよう設定しました。	通年
	○利用者の想いを聴いたり表情や様子から考察し、一人ひとりの想いに寄り添い受けとめながら、気持ちを切り替えることが出来るような手立てや、困り感の表出の仕方を一緒に練習しました。また、相手の気持ちを想像し、その場にふさわしい言動が出来るよう、経験を積みました。	通年
	○感染症予防対策を行いながら、季節に合わせた活動・社会性を学ぶことが出来る活動を計画しました。 ・地域のスーパーや露店などでの買い物学習、施設内で疑似体験としてのお買い物ごっこ、動物園への遠足を行いました。 ・公共交通機関の利用は控えました。	通年
	○就園・就学を意識し、朝の会の課題や活動を通して、最後までやりきる力や自分のことは自分で出来るよう基本的な生活習慣を身に付けること、集団の中での活動を意識することが出来るよう支援しました。	通年
	○言葉だけではなく、一人ひとりに合わせた表現方法でやり取りをすること、伝わることの嬉しさを感じることが出来るよう支援を行いました。	通年
	○プチ縁日は他部署に協力していただきながら、利用者・他部署のスタッフと交流することができ、良い経験が出来ました。	随時
	○連絡ノート、送迎時、必要に応じて保護者参観・面談を行い、情報の共 有や課題の解決策など、連携を図りながら支援の参考にしました。	通年
	○支援会議への参加、併用先の園に訪問し、情報共有や課題の確認を し、支援の方向性を統一しました。	随時
	○自立支援協議会(こども部会)に、可能な範囲で参加しました。(園訪問についての学習会)	随時
3.保護者、関係機関との連携を強化します。	○コロナウィルス感染防止のため、稲荷山養護学校との就学説明会は中止 しましたが、年長児保護者と面談、特別支援校の見学・体験の案内をしまし た。	6月
	○昨年同様、放課後等デイサービス説明会と併せて保護者会を実施しました。	12月
	○12月に放課後等デイサービス説明会を実施しました。 10	12月

	○部署内でミーティングやケース検討を実施し、利用者の様子・課題の共 有や対応の仕方の統一等、支援の向上を図りました。	月2回
4.職員の支援技術の向上を 目指します。	○ヒヤリハットの報告書の記載、事故報告の検証を行い、再発防止に努めました。	随時
	○法人研修・部会に参加し、支援技術・意識の向上に努めました。	随時
	○関係機関にパンフレットの配布・補充を行いました。(保育園・幼稚園・医療機関・行政・相談支援事業所・療育コーディネーター等)	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○関係機関との情報共有と情報発信を行い、新規利用に繋がるよう努めま した。	随時
	○ホームページに行事の開催報告や新着情報を掲載し、活動内容を公表しました。	随時
6.地域の方々に知っていた だけるよう発信をしていきま	○コロナウィルス感染防止のため、ウィズ・フェスタの開催は中止となりましたが、買い物学習ではコロナウィルス感染防止対策を図りながら地域の商店に出向き、交流を図りました。	随時
す。	○ホームページに行事の様子を掲載しました。	随時

(児童発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
R02	年度	22	2	7	7	6	7	1782	65.5%
R03	年度	25	6	6	6	7	10	1799	76.6%
	上半期	24	1	10	6	7	6	814	67.5%
R04	下半期	29	4	12	6	7	6	905	74.2%
	年度	29	4	12	6	7	12	1719	70.9%

○分 析

- ○3月末、29名の登録。
- ○コロナ対策を実施しながら受け入れを行い、活動に制限はあるものの、代替活動を実施し社会体験の場を設けています。
- ○昨年度末より延期していた見学・体験希望者が多く、今年度は12名の利用者を受け入れました。
- ○併用している園に完全移行を目指す利用者が増加し、振替を希望する方が減少しました。 園行事・リハビリ等での欠席も多いと予測できるため、保健師・療育コーディネーター等との連携し、来年度も新規利用者受け入れのための宣伝活動を行い、新規利用に繋げていきます。

2. 連携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園·幼稚園 移行(増日含
R02	年度	15	4	5	<u>す。)</u> 4
R03	年度	34	8	16	4(完全移行1)
	上半期	22	5	9	6
R04	下半期	35	8	10	4
	年度	57	13	19	10

連携先

- ○福祉(南部相談支援センター、千曲坂城基幹相談支援センター、療育コーディネーター)
- ○教育(各幼稚園・保育園・認定こども園、特別支援学校、各学校、教育センター)
- ○医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院)
- ○行政(長野市(こども総合支援センター、こども相談室、保育・幼稚園課)、保健所、各保健センター)
- ○その他(保護者、親戚)

○分 析

- ○支援会議・家庭訪問・関係機関訪問はコロナウィルス感染防止対策をし行いました。
- ○園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には園開放等の情報提供をし、希望する園との支援会議を行い就園のお手伝いをしました。また、コロナウィルス感染防止対策として医療機関でのOT・STの見学は行いませんでしたが、資料・動画等での現状報告・情報交換を行いました。
- ○関係機関と連携を図りながら、保護者の方の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、令和4年度は4名の児童が保育園への移行し、令和5年4月には2名が完全移行の予定となっています。今後も児童の様子を観察しながら完全移行を目指していきます。

11 1	H I	一次
1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることができる力を育めるような支援をしていきます。
2	事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス 地域生活支援事業 ○自立サポート、タイムケア
3	事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日8:30~18:00 サービス提供時間15:00~18:00 定員10名 休日8:30~18:00 サービス提供時間9:00~15:00 タイムケア・自立サポート
4	職員体制	放課後等デイサービス 管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士1名児童指導員5名 地域生活支援事業 指導員等15名(非常勤職員)

事業目標	実績報告	実施月
	○個別や集団の活動の中で、個々の目標や課題の達成が出来るよう、手立てを考えながら寄り添う支援を行いました。 ・特に宿題のニーズが高まっている中で環境を整え、時間を設定し取り組みました。	通年
1.利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○利用者本人や家族の想い、総合的な援助の方針を基にしながら、モニタリングやアセスメント、個別の教育支援計画等を参考に個別支援計画の作成を行ないました。また、個別支援計画に基づいた支援を行なっています。	通年
	○日々の様子や成長等を記録し、スタッフと確認をしながら定期的にモニタリングを実施しました。	6ヶ月毎
	○感染症の動向に留意しながら、感染対策を継続実施し活動を行いました。	通年
2.将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○季節に合わせた活動を実施し、社会でのルールやマナーを学べるよう支援を行いました。 ・菜園活動では、人参、大葉、さつまいもを栽培し収穫しました。また、いただいたシードペーパーも植えました。栽培方法等をインターネットで調べたり、実際の成長過程を見る事で楽しみや栽培育成の大変さを学ぶ機会となりました。 ・クラブ活動では個人目標や狙いを立て、店内でのマナーや金銭の支払い、商品の受け取り等の社会体験を積めるよう支援を行いました。(いちご狩り、アイスクリーム購入、ボーリング、小諸外出、クリスマスWEEK、初詣等)。 ・12月の創作活動では菜園で収穫したさつまいものつるを各部署に配布、クリスマスリースを作成しています。	通年
	○就労体験や作業体験等、他部署の活動に一緒に参加しました。 ・NPO法人あいわーくすにてねぎの収穫体験。 ・児童発達のプチ縁日のお手伝いへの参加や、生活介護の作業体験。(金魚すくい色水入れ、アイロンビーズ作品作成、くるみボタン作成、分別作業、消毒作業等)。	随時
3.保護者、関係機関との連携 を図ります。	○保護者や学校、関係機関と送迎時や電話等にて様子の情報交換と共有を行い、保護者や利用者の想いを確認しながら支援を行いました。 ・支援・関係者会議(状況に応じてオンラインや書面)に参加し、情報の交換と、支援の統一を図りました。 ・希望制にて保護者面談を実施しました。家庭での様子の詳細等を伺う事で成長に合わせた支援に繋がりました。	随時
	○自立支援協議会(長野市こども部会、南部地域事業所連絡会)へ参加し、 各事業所での取り組みや課題の共有、対応方法等の確認を行いました。 13	随時

	○部署内ミーティングにて支援内容の確認や会議の報告、個別支援計画 のモニタリングや計画の検討を実施、また活動の検討、振り返り等を行い、 意識や支援の共有・強化を図りました。	月2回
4.職員の支援技術の向上を 目指します。	○ヒヤリハット、事故報告書等を記載と回覧にて確認を行い、必要に応じて 対応の検討実施やモニタリングを行いました。	随時
	○法人内の部会研修、外部研修への参加を行い、支援技術や意識の向上を図りました。 ・サビ管・児発管基礎研修、応急手当普及員研修、自立支援協議会療育部研修等。	随時
	○相談支援専門員や関係機関と連絡をとりながら空き状況の発信や希望者の見学を行いました。 ・見学や体験、実際の利用、また現在利用されている方の利用日増加に繋がりました。	随時
5.新規利用者に来ていただ けるような活動を展開します。	○放課後等デイサービスを知っていただく為に説明会を実施しました。・長野市南部合同説明会。・ウィズ児童発達利用の年長児保護者を対象とした説明会。	7月 12月
	○保護者の方や外部の方に様子を知っていただけるように、お便りや、写 真を中心とした活動報告を作成し、ホームページに掲載を行いました。	年4回
	○保護者アンケートの実施と共に、事業者評価表を基に現状の確認と改善検討を行い、ホームページへ掲載を行いました。	11月 ~2月

(放課後別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
R02	年度	40	25	9	6	7	2475	80.8%	32
R03	年度	38	24	9	5	4	2589	84.3%	24
	上半期	36	24	7	5	4	1271	77.8%	23
R04	下半期	37	25	7	5	1	1144	74.1%	23
	年度	37	25	7	5	5	2415	75.9%	23

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	26	26	26	26	24	26	25	26	26	24	24	27
延べ人数	201	208	215	211	245	191	193	182	195	184	181	209
大人利用者	145	128	146	134	172	127	141	140	144	126	131	154
稼働率	77%	80%	83%	81%	72%	73%	74%	70%	75%	77%	76%	77%

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
R02	年度	2	6	1	1	0
R03	年度	2	5	0	1	0
R04	年度	3	4	0	0	0

〇分 析

- ○新規利用者は、児童発達から4名、12月に1名の5名でした。また、10月、3月それぞれ1名が利用終了、2名卒業となっています。
- ○平日は登録1日平均11.4名、土曜日は15名程度の登録(不定期含む)、1日平均9名程度の予約でしたが、体調不良や学級閉鎖、コロナ陽性、自粛等、キャンセルが多く計594回ありました。特に8月に73回、9月に58回と多く見られました。保健所へ連絡するケースもありましたが、感染が広がる事はなく、閉所には至りませんでした。

活動においては、県の警戒レベルに応じた活動を見直し、感染対策を継続しながら活動先の選定や内容の組み立てを行ないました。

○登録利用者37名のうち、25名の約67%が稲荷山養護学校の生徒となっています。また、新規利用者5名のうち、3名が地域校の生徒で、地域校の生徒は9名の24%となっています。

4. 連携

		支援会議	関係先訪問
R02	年度	34	7
R03	年度	28	3
	上半期	15	3
R04	下半期	22	4
	年度	37	7

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育機関(各特別支援学校、各地域の小学校)、医療機関(稲荷山医療福祉センター、日本赤十字病院、竹重病院、栗田病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分 析

- ○今年度より長野市南部児童発達利用の年長児を対象とした長野市南部の事業所合同放課後等デイサービスの説明会(7月)を実施し、12月にはウィズ利用の児童発達を対象とした放デイ説明会を実施しました。相談支援専門員や学校、保護者の方からの問い合わせ(情報ツゥーやホームページ)や説明会を経て、見学や体験を実施し実際の利用に繋がっています。
- 今後も継続的に関係機関に情報交換を行い、事業所の特徴や空き情報等の発信を行っていきます。
- ○支援・関係者会議は、コロナウィルス感染予防の為、電話での聞き取りや書面のみ提出、またオンライン形式での開催もありましたが、対面での開催回数も戻りつつあります。各種会議については、本人の様子や検討事項、可能性、利用等についての確認、共有を行っています。また、学校で開催される会議は就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、書面のみで欠席となっている現状も課題となっています。
- ○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活が送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます
2	事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス ○自立サポート
3	事業概要	定員10人 平日 開所時間 9:00~18:00 サービス提供時間 14:00~18:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00~18:00 サービス提供時間 10:00~16:00
4	職員体制	管理者1人、児童発達支援管理責任者1人、指導員2人

事業目標	実績報告	実施月
	○個別支援計画作成にあたり ・サービス利用開始時に、ご本人と話し合い、利用時に何を目標、意識していくのかを明確にした計画の作成をしました。	通年
1. (利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを 傾聴し、目標を明確にした利 用ができるよう、サービスを提	○モニタリングについて・半年ごとにスタッフ間および利用者・保護者への個別支援計画の振り返りを行い、現状の報告と今後の課題について情報の共有を行いました。	通年
供します。 安心・安全に利用できるよう 配慮します。	○感染症対策について ・個別でのコロナ感染者の発生は5件ありましたが、感染防止のための対策を実施したため、センター内での他者への感染はありませんでした。 ・外部での活動において、活動先の管轄の方と事前に連絡を取り、相互に感染対策について確認を行いました。	通年
2. (生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を ************************************	○プログラムについて ・これまでの講座の傾向として座学が中心でしたが、楽しく学べることを目指し、講座内容に関連したレクを取り入れ、意欲的に参加できる工夫をしました。	通年
持って生活していくために、 出来ることを増やす支援をし ます。	○支援について ・利用者が自分で考え、取り組むことを念頭にサービスの提供に努めました。「親に行かされる」ではなく、「自分で決めて行く」ことで活動へ積極的な参加をすることができました。	通年
3.(「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージで	○高校生講座について ・上半期に「あいさつ」や「身だしなみ」等基本的なビジネスマナー、下半期に「履歴書」や「面接練習」など実践的な講座を行いました。 ・全員が自分の意見を伝えられるよう配慮した講座を実施しました。	通年
きる」支援を提供します。	○企業での体験実習及び企業見学について ・8月に株式会社西友にて職場体験の実習を実施しました。3月に松代金属 株式会社へ企業見学で訪問しました。	8月 3月
4.(稼働率の向上)	○新規利用者の確保について ・年間を通しての新規利用者数は9名でした。紹介経路として、相談員から5 名、学校から2名、保護者の繋がりから2名でした。	通年
新規利用者の確保及び、 登録者1人当たりの利用日数 を増やしていけるよう活動を	○周知活動について ・現在利用されている方のいる学校及び相談支援専門員へのパンフレット の配布を実施しました。また、学校での出前講座等の実施をしました。	通年 3月
展開します。	○新規活動拠点について ・定期的にテナントの空き情報を見つつ、検討を続けてきました。利用者の ことも考慮し、駅から徒歩10分圏内での検索を実施しています。	通年
	○職員研修について ・外部研修への参加は6件でした。複数人の参加が可能な研修に関しては、センタースタッフ数名で参加し、自己研鑽に努めました。	通年

5.(支援スキルの向上) 職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○ミーティングについて ・月1回午前中に部署ミーティングの時間を設け、利用者の情報共有及び 検討、プログラムについての検討を実施しました。その他、必要の応じてそ の都度話し合いの時間を設けました。	月1回
	○活動内容の充実について ・「楽しみながら学ぶ」を前提に、利用者と一緒に活動内容を検討する等、 本人が参加したくなる活動を意識し、実施をしてきました。	通年
6.(ネットワークの構築) 保護者・関係機関との連携	○保護者との連携について ・本人と振り返りを行う際には、事前に保護者と連絡を取り、ご家庭でのフォローなどのお願いをしながら実施をしてきました。また、小さな出来事や変化についてもその都度報告を行い、情報の共有に努めました。	通年
保護有・関係機関との連携 を強化します。	○支援会議への参加について・支援会議に参加をする前に職員で話し合い、センターとしての役割について提案等、会議に参加をする意識を高めました。・支援会議に参加した者は、ミーティングにて職員への報告を行いました。	通年

(キャリアサポートセンター別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	Ė	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
R02	年度	36	7	16		13	12	1287	44.3%
R03	年度	36	7	11		17	6	1403	48.1%
R04	上半期	39	8	9		22	8	719	49.5%
K04	下半期	34	7	9		18	1	722	49.2%
	-				年	間計•平均	9	1441	49.3%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
登録者数	32	33	34	36	37	39	37	37	35	34	34	34	計
開所日	25	23	26	25	23	24	24	24	26	23	23	26	292
延人数 平日·休日	72 32	81 30	88 32	96 43	32 96	82 35	83 37	75 24	84 44	67 41	86 23	131 27	977 464
稼働率	42%	48%	46%	56%	56%	49%	50%	41%	49%	47%	47%	61%	

〇分 析

- ○年度末の登録利用者数は34名でした。新規利用者数は上半期が8名、下半期が1名でした。登録はしているが、前回更新から1度も利用の無い方(6名)については、相談支援専門員、ご家族と相談の上、一旦サービス利用を停止としてもらいました。
- ○令和4年度に高校に進学した方は平日は学校のクラブ活動への参加や下校時刻が遅いこと、定時制の学校などの理由から、平日夕方の利用は全くありませんでした。現状として、学校生活に困っていないことも理由として大きいと思われます。反面、新規の見学や問い合わせのほとんどが小中学生となっています。基本的に地域の学校に在籍されている方が多く、送迎を前提としているため、現状としてお住まいの地域によって対応が難しい場合が多く見受けられました。
- ○コロナウィルス感染症の影響について、年度当初に比べて少しずつ公共交通機関を利用しての通所や、活動への参加も増えてきました。令和4年度において、利用者のうち5名の方が実際に感染され、2名の方が発熱直前に利用していたため、スタッフ含め複数名の利用者が「接触者」となりましたが、他者への感染はありませんでした。接触者が発生した際には、利用予定のご家庭へ連絡をし、各家庭の判断で利用の有無をお任せしました。また2件とも夏休み開始時とお盆明けであったため、夏休み中の利用キャンセルが多くなりました。
- ○活動のプログラムについて、前年度より、少しずつ屋内外含め、お出かけや外食等の活動を取り入れていきました。次年度においても引き続き、利用者から活動内容の希望を募り、充実した活動ができるよう努めます。

3. 連携

		支援会議
	上半期	30
R04	下半期	21
	計	51

連携先

長野養護学校、長野養護学校朝陽教室、稲荷山養護学校、若槻養護学校、篠ノ井西小学校、通明小学校、昭和小学校、共和小学校、三本柳小学校、鍋屋田小学校、安茂里小学校、山王小学校、篠ノ井西中学校、川中島中学校、広徳中学校、櫻ヶ岡中学校、長野西高等学校中条校、豊野高等専修学校、長野市北部障害者相談支援センター、長野市南部障害者相談支援センター、併用放デイ他事業所、市内相談支援事業所、須高地域総合支援センター等

○分 析

○支援会議について

学校・医療機関を含めた会議では夕方に開催されることが多く、可能な限り参加をしてきましたが、送迎等で都合がつかない場合には文書等でセンターでの様子をまとめたものを事前に参加される方に送付し、情報提供に努めました。

○連携先について

学校や福祉関係機関だけではなく、体験実習として合同会社西友三本柳店、企業見学として松代金属株式会社にご協力いただきました。体験実習では高校生を対象に、企業見学では全利用者を対象に実施しました。見学では、最初は大きな音に驚き、耳を塞ぐ姿も見られましたが、実際に部品を触らせていただいたり、丁寧な説目をしていただく中で興味を持って参加することができました。また、製造業の仕事のイメージを持つことができたと思われます。

14 1		
1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。
2	事業内容	障害福祉サービス 〇生活介護事業
3	事業概要	生活介護 定員20名 開所時間平日 9:00~18:00 サービス提供時間 9:00~16:00
4	職員体制	サービス管理責任者 1名、支援員 9名、准看護師 1名、運転手 2名

事業目標	実績報告	実施月
1. 生活介護利用者・家族の 想いを聞かせて頂き、支援を	○利用者や家族との面談を通し、挙がったニーズや利用者の様子に対して支援の方向性を確認しながら個別支援計画の作成、モニタリング会議を行いました。 面談に関しては、コロナウイルスの警戒レベルに応じて電話にて対応する事もありました。	6ヶ月毎
していきます。	○利用者の1日の様子を日誌に記す事で家族と連絡を取りました。利用者の様子で大きな変化や気になる様子が見られた時は、面談や電話等で、 状況の確認と今後の対応について話す事で不安の解消に努め、必要に応 じて相談支援専門員と情報共有を行ないました。	通年
	○はたらくプログラムを実施しました。 ・法人外作業では、ズークの内職作業を積極的に請け負い、利用者の得意なことを生かし作業分担を行ないました。新たに作業へ取り組む利用者が増えた事と就労支援センターと協力して進めた事もあり、昨年より作業量が4倍増加しました。 ・あいわーくすの作業では紙破りを手作業やシュレッダーにて1ヵ月10キログラムの納品を目指し進めました。スタッフが事前に準備をする事で全ての利用者が作業に関わる事が出来ました。また、地球儀をカードに貼る等の作業は利用者に合わせて治具を作る事で、期日までに納品する事ができました。 ・ポスティングでは、毎月290件程度配布を行ない、農福連携事業へも2回参加し苗箱の洗浄とじゃがいも堀りの作業を行ないました。 ・アパート清掃では6カ所(10月1ヵ所増、1月1カ所減)清掃をしていますが、住民の方から利用者の作業が丁寧だと褒めていただきました。 ・法人内作業では、玩具の消毒、洗車、草取り、雑巾縫い等の作業を行ないました。また、利用者にパソコンで活動の写真を編集してもらい、お便りを10回発行する事が出来ました。 ・新たに新聞で作る袋づくりにも挑戦しています。	通年
2. 活動内容の充実を図ります。	○くらすプログラムを実施しました。 ・更衣、準備、片付け、歯磨き、お手伝い等を通し、利用者に合わせて支援の方法を変えながら、生活レベルの維持・向上を目指しました。	通年
	○あそぶプログラムを実施しました。 ・外出外食では、10月小布施ハイウェイオアシス、11月りんご狩り、1月初詣、3月善光寺仲見世通り散策、もりたろうで外食を楽しみました。コロナウイルスの感染状況も鑑みながら、外出後の昼食は外食からテイクアウトに切り替えての企画が多くなりましたが、3月に外食を実施すると利用者保護者からも嬉しいとの声が聞かれました。 ・創作活動では、季節を感じられる壁画作りを始め、創作した物を使い、レクレーションを楽しむ企画をしました。 ・アート活動では月に1回講師を迎え、墨遊びや絵具、クレヨンを使い絵画等を楽しみました。	6ヶ月毎
	○土曜日開所は、6月は開所せず、平均4.3人の利用がありました。利用する方は固定していますが、2月に遠出の外出を計画した事で当日欠席が続いていた利用者が興味を持ち、出席したことにより3月も継続して利用する事が出来ました。	通年

2. 活動内容の充実を図ります。	○健康管理については、コロナウイルスが蔓延する中、より一層の注意を払ってきました。 ・毎日の検温、月1回の体重測定、保健だよりの発行を行ない、利用者の様子から体調の変化が見られた時には、保護者へ連絡の徹底をしました。早めの対応を取る事で体調悪化の防止や感染予防に努めました。・コロナウイルスの感染者が出た際には、通常1回の検温を3回に変更し、体調の変化を確認し、活動のグループの見直しを行いリスク軽減に努めました。・外出の際には、散策をして体を動かす機会を作りました。また、週1回ウォーキングや体操の時間をプログラム入れましたが、身体を動かす事を好まない利用者が多い現状がありました。お昼休みには健康器具を使い運動をする事で健康増進を意識し、他機関が実施した体操をZOOMを使い参加をしました。	通年
	○法人内の他センターと連携をすることで、活動の充実を図りました。 ・発達支援センター企画のプチ縁日では、お菓子の詰め合わせ作業を行ない、当日参加することで、利用者も楽しんでいる姿がありました。 ・はたらくプログラムでは就労支援センターと協力、調整をすることで、役割分担をしながら進めることができ、作業をする機会が増えました。	通年
3.新規利用者に来て頂けるよ	○養護学校の進路指導主事に受け入れ状況を説明をし、実習生を前期2 名、後期2名、見学者5名を受け入れました。 ・相談支援専門員からの新規相談が4件ありました。相談内容に応じて、他 事業所へ訪問し、相談があった利用者の様子を見に行かせてもらいました。 ・発達支援センター(放課後)の利用者の就労体験を行ないました。	通年
うな活動を展開します。	○長野市障害福祉ネットへ参加しました。 ・かつどう部会での生活介護連絡会は2回参加しました。 ・大人の夕方支援についてのワーキンググループへ参加をしました。	通年
4.職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故報告・気付きの中から、再発防止に努めるようにしました。 ○スタッフ間のミーティングでは、個別支援計画に対してのモニタリング会 議や日々の支援の中で、気になった事や対応に迷うこと等を出し合いなが ら情報共有や支援の方向性を話し合う場を作りました。 ○てんかん発作時の対応についてケースを振り返りながら、スタッフに向け て発作時・救急搬送時について確認を行いました。	通年
指しよう。	○応急手当普及員講習、行動障害者支援者養成研修、虐待防止の研修に参加をしました。 ・長野市障害福祉ネットのこども部会、かつどう部会で開催された「強度行動障害について」「強度行動障害の見方」の研修に全スタッフが参加をしました。	通年

(生活別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数		
R02	年度	21	\setminus		
R03	年度	20			
	上半期	20	1		
R04	下半期	0	0		
	年度	21	0		

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
R02	年度	0	7	9	5	4.9
R03	年度	0	6	8	6	5
	上半期	0	5	10	6	5
R04	下半期	0	5	10	6	5
	年度	0	5	10	6	5

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
開所日	21	20	22	21	21	21	21	21	23	21	21	23	21
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延人数	326	296	352	311	299	310	316	312	351	301	305	351	319
稼働率	78%	74%	80%	74%	71%	74%	75%	74%	76%	71%	72%	76%	75%

○分 析

- ○20名の定員に対し21名の登録となっています。
- ・4月から1名が週3回、他事業所と併用で利用開始となりました。
- ・2名が継続して欠席をしてます。内、1名は施設入所されている為、コロナウイルス感染症対策による利用 自粛が令和2年4月以降続いています。
- ・6月から1名、短期入所施設の利用時に生活介護の支援も受けるとの事で併用利用となりました。
- ○コロナウイルス感染症関係では、利用者家族の陽性で自宅待機や利用自粛により、利用者の欠席が78回ありました。
- ○1日あたりの平均利用者数は15.1人となり、歯科治療や入院、てんかん発作による欠席、健康面での欠席、年末年始等の欠席が多くありましたが稼働率は前年度と同様75%となっています。
- ○個別面談6件、電話面談5件、支援会議27件、区分調査7件を行いました。
- ○活動面については、利用者の人数や相性に対し室内の手狭さがあるため、3グループに分かれて活動と外出活動は4グループに分かれて行ないました。グループに分かれた中でも利用者の情緒に応じて、ウォーキングやドライブに出掛けたり、個別に対応する中で、利用者同士がお互いに安心して過ごす事ができるように対応をしました。また、コロナ渦で活動を見直すこともありましたが、利用者に楽しいと感じてもらえるような計画を実施できるようスタッフで話し合いを進めていきました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加してくことができるように、ひとりひとりの 願いに応じた就労支援を行っていきます。 就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』 『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。
2	事業内容	障害福祉サービス ○就労移行支援 ○自立訓練(生活訓練) ○就労定着支援 助成金・補助金 ○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:就労移行14名、自立訓練6名、就労定着支援定めなし 開設日:月曜日〜金曜日(平日)及び土曜日(1/月) 開設時間:8:30〜17:30 サービス提供時間:9:00〜16:00
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名 (自立訓練)4名 ○職業支援員3名 ○定着支援員2名

事業目標	上半期実績報告	実施月
	【就労移行、自立訓練】 ○個別支援計画について ・2週間に1度、振り返りを丁寧に行いました。できていることや課題を知り、 ご本人の思いを大切にしながら、主体的に目標を立てられるよう一緒に考 えました。	2/週
1. 一般就労を目指します(目標就職者7名以上)	【就労移行】 ○就職に向けての準備について ・ハローワークでのPC検索や窓口相談などを一緒に行い、就職活動を積極的に行いました。 ・「働くイメージ作り」「モチベーションの向上」「就職に向けて」など、利用者の目的に合わせて見学・体験を行いました。 ・合同面接会に参加し、企業の方から直接お話を伺うことで、様々な仕事を知り、就職について考える機会になりました。	通年
	【就労移行】 ○就職者数 5名。	
	【就労移行・自立訓練】 ○定期的な支援会議の実施について ・3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有 を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確 認ができました。	通年
	【就労移行、自立訓練】 ○施設外就労について ・新規契約先として松代金属にて製造に係る仕事が加わり、作業種が増えることで、自分の強みや適した環境を知る機会となっています。また、従来の手順にとらわれず、利用者一人一人の得意なことを活かせる作業内容や工程を工夫し、力を発揮できるよう取り組みました。また、企業の方と連携し、報告・連絡・相談を実践できる機会となり、社会スキル向上に繋がっています。	通年
	【就労移行、自立訓練】 ○新規実習先の開拓 ・スーパーやドラッグストアなど障害者雇用を実施している企業と連携し、見 学・体験をさせていただきました。 ・松代金属での活動を通じて製造業への興味関心を抱く方が増え、利用者 の希望により、見学・体験を実施するケースが多く見られました。	随時
2.【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせ た働く場を場所を提供します	【自立訓練】 ○事業所内訓練の充実について ・松代金属やあいわーくす、他部署と連携し、カギ・取説の封入作業、カレンダーの検品・作成、お菓子のパッケージ作業などを積極的に受託して取り組みました。正確さや責任を持って仕上げることを意識して作業を行うことができました。 ・振り返り用紙の目標入力やタイムカードの作成を行うなど、パソコンでの入力を行う機会を作りました。	通年

•						
	【就労移行、自立訓練】 ○社内学習会について ・土曜日開所を中心に学習会を行い、前年度の内容を見直してリニューア ルしたり、新しい企画を開催しました。					
	 ・働くとは ・日常生活 ・言葉遣い ・就職までの道のり(セルフプラン) ・防災について ・伝言ダイヤル体験 ・お金の使い方 	毎月				
	・在職者の話 ・企業の方の話 ・求人票の見方 ・良いところ探し ・履歴書の書き方 ・面接の受け方 ・言葉の伝わり方 ・初詣 ・書初め ・食生活について ・こんなときどうする?・余暇の過ごし方 等					
	【就労移行、自立訓練】 ○新型コロナウイルスの感染防止対策について ・施設内・公用車等の消毒等を行い、衛生環境を整えました。手洗い・うが い・マスク・フェイスシールドの着用・3密回避等の感染予防の対策に努めま した。	通年				
3.【就労移行・就労定着】 就職後も安心して働き続ける ことができるよう、丁寧なフォ ローアップをします (目標定着率80%以上)	○企業訪問、面談等の定着支援について ・就職後は、職場訪問の他、定期的な面談、電話連絡を通して、困りごと等 を聴き、早期解決に向けて一緒に考えました。 ・職場での支援会議やセンターでのモニタリングを定期的に行い、企業・ご 家族・関係機関と情報共有しながらチーム支援に努めました。 ・過去3年間の定着率は81%となっています。	通年				
4.職員の就労支援技術の向 上を目指します	○支援スキルの向上について ・毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施しました。 日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。 ・スタッフ全員が学習会の企画からパワーポイントの制作、実施まで行いま した。分かりやすく伝えることや興味を持って参加しやすい進行について学 ぶ機会となりました。	随時				
	○外部研修参加について ・コロナの影響もあり、外部研修への参加はリモートとなりました。しごと部会主催の企業懇談会では、企業と当事者の生の声を聞くことができました。	随時				
5.新規利用者の確保に向け た活動を展開します (目標年間平均稼働率80% 以上)	○利用者確保に向けて ・相談員・病院のデイケアからの見学・体験や就労アセスメントを積極的に受け入れることで利用に繋がりました。また、週3日利用からスタートした方たちも、徐々に自信を付けて週5日出勤できるようになり、年間稼働率は92%となりました。	通年				

(就労別紙)

1. 利用状況

		就労	移行	
		実利用者数	新規数	稼働率
R02	年度	22	11	98%
R03	年度	19	8	77%
	上半期	18	9	89%
R04	下半期	20	7	96%
	年度	25	14	92%

自立	訓練			
実利用者数	新規数	稼働率		
5	4	14%		
7	4	45%		
7	0	59%		
4	2	20%		
9	2	39%		

就労	定着	
実利用者数	新規数	離職者数
12	3	1
16	7	2
15	2	0
13	0	1
16	1	1

2. 月別利用状況

就労移行	丁		定員14	名										
	4.	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	2	1	20	22	21	21	21	21	21	22	20	20	23	21.1
登録者	1	2	14	14	14	15	14	15	15	18	15	16	15	14.8
稼働率	79	9%	77%	93%	92%	95%	97%	90%	93%	100%	89%	108%	97%	92%
自立訓練	東		定員6名	7										
登録者	7	7	7	7	7	6	6	4	3	3	3	3	3	4.9
稼働率	74	1%	66%	70%	66%	37%	38%	31%	22%	23%	22%	6%	15%	39%
就労定着	<u> </u>													
750757C	盲													
登録者	_	3	13	13	12	12	13	13	13	13	13	13	13	12.8

3. 利用経路 ※()内自立訓練

	市町村	就業・生活 支援センター	ハローワーク	医療機関	教育機関	相談機関	その他	
上半期	0	6(3)	0	1(1)	3	6(2)	2(1)	※ Γζ
下半期	0	1	0	0	3	2(2)	1	定
年度	0	7(3)	0	1(1)	6	8(4)	3(1)	

※その他 ご本人・家族」「就労 定着時の離職」

○分 析

就労移行

4月は12名(内新規3名)でスタートしましたが、見学者22名・体験9名の受け入れを行い、4名が利用、2名が次年度の利用に繋がりました。また、就労アセスメントのみの利用者7名、自立訓練からサービス変更の方が2名となっています。5名の方が就職しましたが、5月以降は利用者が定員を割ることなく、現在も15名で活動をしています。週3日半日の利用であった方たちも、少しずつ自信を付けながら出勤日数を増やしていくことができ、稼働率は92%となりました。新型コロナウイルスに利用者5名、スタッフ2名が罹患、家族の感染による自宅待機が2名あり、稼働率に多少影響はありましたが、日々の感染対策を徹底することで通常開所することができました。施設外就労先(老人ホーム)でもコロナ感染や防止のため、1ヶ月訪問できないことがありましたが、金属加工会社や施設内作業に変更し、充実した活動を行うことができました。

自立訓練

定員6名のところ、7名でのスタートでしたが、4名が入院や妊娠、在宅希望により利用終了となり、2名が就労移行サービスに変更しています。新規で2名の方が利用となりましたが、病状の波や体調不良などにより休みが続く方が多く、稼働率は39%となっています。そういった中でも、一人一人に合った過ごし方や働き方を相談しながら、少しずつ安心して活動できる場所になっています。

就労定着

今年度は17名の方が利用し、内新規利用者3名となっています。職場の人間関係の悩みを抱える方や意欲に波のある方など様々な課題はありましたが、ご本人の頑張りと会社や家族のサポートがあり、働き続けることができました。3名が3年の利用期間を終了してナカポツに引継ぎをしていますが、現在も安定して働いています。転職希望や職場での不適応により2名離職しています。

4. 実習状況

		見学	実習	ジョブコーチ
R03	年度	20	10	12
R04	上半期	9	4	5
	下半期	9	5	4
	年度	18	9	9

見学及び実習先(職種)

(見学)

- ・ネクステージ(洗車)
- ・長野リネン(クリーニング)
- ・フォルクスワーゲン(洗車)
- •三和製作所(製造)
- ・なから(軽作業、清掃)A型 (見学・実習)
- ・有限会社 藤(エノキの栽培)
- ・西友(品出し・清掃)
- ・シャトレーゼ(値付け、品出し)
- ・マツモトキョシ(品出し)
- ·DICE(清掃)A型

- ・マツモトキヨシ(品出し・清掃)
- ・福田青果(青果の袋詰め)
- ・セラテックジャパン(製造)
- •堀内精工(製造)
- •轟病院(環境整備)
- ・小林多男商店(笹の葉の選別)
- •長野日本無線(清掃)
- ·本久(清掃·事務補助)

○分 析

年間計画に沿って、見学18件、実習9件実施しました。新規利用者は、働くイメージづくりを目的にグループでの見学を行い、2年目の利用者については、ご本人が選んだ求人情報から見学・実習を行い、自主性を大切にして活動しました。松代金属での活動を通じて製造業への興味関心を抱いたり、適性が見えてくる方が多く、製造業への見学・体験が増えました。職場実習を行うことで、できることや課題点の確認ができ、就職に向けて具体的な目標を持ち、日々の訓練に取り組む姿が見られました。今後も個別の希望や目的に合わせて見学体験を実施していきます。

5. 就職状況

		就職者数 ()內A型事業所	平均利用 期間	平均実習 日数	定着支援 利用者数
R02	年度	6(1)	2年1ヶ月	35	12
R03	年度	7	1年8か月	12	2
	上半期	2	1年8か月	15	15
R04	下半期	3	1年9か月	14	14
	年度	5	1年9ヶ月	15	16

就職先

- •有限会社 藤
- •轟病院
- •長野日本無線
- ・マツモトキヨシ
- •本久

○分 析

就労移行

利用開始時に、週3日午後から出勤していた方や集団の中で過ごすことに不安を感じていた方も、少しずつ自信を付けて、5名の方が就職をしました。体験後に職場の方から良い評価を頂いても、お断りするケースもあり、自分で考えて選択することが出来ています。1週間体験をして「できそう」と感じたら、就職に向けて2週間程度の実習を行う方が多いため、平均15日の実習期間となっています。年々、就職までに時間を必要とする方が増え、平均利用期間は1年9か月となっています。

令和	4	年度	ウィズ相談支援センター
11 (11)	T	$\pm \kappa$	ノイ/ 11日K 入1及 ピン /

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。
2	事業内容	障害福祉サービス ○特定相談支援事業 相談支援事業 ○障害児相談支援事業
3	事業概要	開設時間 平日9:00~18:00
4	職員体制	管理者1人、相談支援専門員2人(専従2人)

事業報告

事業目標	実績報告	実施月
1. 基本相談支援を行いま	○新型コロナウイルス感染状況については、少しずつ落ち着いてきており、 研修会や、関係者会議についてはリモートが継続されていますが、支援会 議については対面での実施に戻ってきました。	通年
す。	○相談内容は児童から大人まで多岐に渡り、聴く力、専門的な知識、関係機関とつながる力が求められました。中でも関係機関とつながる力、顔の見える関係を作っていくことに重点をおきました。	通年
2. 質の高い事業者を目指し	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画、また定期 的なモニタリングの実施を行いました。 新規利用者については標準のモニ タリング期間が短く設定されているため、その回数が増えました。	通年
ます。	○現任研修に参加し、相談支援専門員自身の自己覚知と振り返りが絶えず必要であることを実感しました。 意思決定支援の中心に本人がいることを心がけ、ニーズを叶え地域生活を支援していくために多職種連携を実践しました。	通年
3.関係機関との連携を強化し	○長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に参加し、情報の取得に 努めました。また連絡会で行われる研修にも参加し、成年後見や介護保険 等の分野にわたる知識を深めました。	通年
ます。	○長野市南部の相談支援事業所が集まり、日頃の悩み、相談支援の方法、地域の実態やニーズ等の情報交換を行いました。その後も顔の見える関係作りを意識し、直接的な関わりを持つようにしました。	通年

○利用状況

		障害児	相談支援(子ども)	特定	相談支援(大人)	備考
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	加 与
R02	年 度	70	90	104	59	70	99	
R03	年 度	76	88	115	69	72	98	
R04	年 度	82	103	144	70	67	140	

登録者数については、障害児相談において微増となりました。児童分野における早期療育・発達支援の必要性が年々増している中、新規利用者数の増加とともに、モニタリングの回数が増加しました。

今までは、就学前に児童発達支援を利用するとそのまま放課後等デイサービスを利用する割合が多かったのですが、今年度は、就学前に児童発達支援の利用、また幼稚園保育園の併用を行っていくことで、就学時には、地域校に入学し、サービスを終了する傾向がみられました。

長野市の施策として、こども未来部において、こども総合支援センター「あのえっと」が開設されており、こどもに関する相談窓口を一本化していこうという動きがとられています。こういった施策にも留意しながら、相談支援事業所としては、そのサービスの必要性について、常に客観的に判断、支援できるように努めています。

11.4	1 1	及
1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2	事業内容	雇用安定事業 ・ 生活支援事業 長野県短期トレーニング事業
3	事業概要	開所時間:9:00~17:30、月~金
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー 4名(うち定着支援担当 1名) 主任職場定着支援ワーカー 1名 生活支援ワーカー 1名 計 7名

事業目標	実績報告	実施月
	○就業支援 ・面談~職場見学・実習と本人の意向を確認しながら本人が意思決定できる支援に努めました。 ・アセスメントの実施、個別支援計画作成、は進めており、紹介状、評価票(アセスメント)と合わせ、それを基にした支援を行いました。	通年
1. 本人·家族の想いに寄り	○定着支援 ・就労定着からの引き継ぎケースが多くありました。連携を図りながら切れ目のない支援を行いました。 ・離職希望や企業からの相談ケースは、主任職場定着支援担当と相談をしながら、本人、企業双方にとって良い方法を考えながら進めました。	通年
添いながら就業・生活支援を 行います	○生活支援 ・金銭管理や家族関係に課題があり、就労継続に影響が出ているケースでは、関係機関と情報共有をしながらご本人の想いを聴き取りました。 ・体調面が整わず就職までの道のりが遠い利用者には福祉サービスの見学・体験等に同行し、次に進むためのご本人の不安を取り除けるよう支援しました。	6ヶ月毎
	○リモート支援 ・コロナ禍が収束した中でも、遠隔地や希望者にはリモート会議や面談を取り入れました。状況に応じて活用することで、スムーズな支援が図れました。	通年
	○地域のネットワーク構築 ・企業同士のネットワーク構築のため連絡会議を開催しました。グループディスカッションをする中で、お互いにヒントが得られた、と好評を頂きました。 ・ハローワークや福祉等の関係機関との連絡会議も開催し、また就労系サービス事業所と連携をし、事業所の支援力向上に努めました。	通年
	○関係機関との連携 ・圏域内の自立支援協議会に参加し、関係機関と情報共有を図りつつ地域にとって有益な情報提供や提案が出来るよう努めました。 ・個々のケースでは役割分担を意識し関係機関と密な連携を図りました。	6ヶ月毎
	○在職者交流会・ピアサポート事業 ・特支の高校三年生を対象に各学校にてプレ在職者交流会を開催しました。4月以降の関係構築の一助になりました。 ・就職面接会前にピアサポートを行いました。面接の練習等を行うことで安心して面接会に臨めました。	通年
3.新規の利用者、企業、サービス提供事業所の掘り起こしをします	○キャンペーン ・自立支援協議会等でセンターの役割や支援について周知し、初めての事業所と連携するケースがありました。 ・ハローワークと連携をしてゼロ企業や未達成企業を訪問し、支援をしました。	通年
4.職員の就業・生活支援技 術の向上を目指します	○ミーティング・研修 ・毎日17:20~、毎週木曜日午前中にミーティングを行いました。検討事項は3人の 小グループに分かれて行うことで活発な意見交換ができました。 ・アセスメントの手順をマニュアル化し、ミーティングの時間の中で全員に周知確認 し、何度か練習を重ねました。後半は標準をとるため、部署を超えてアセスメントを 始めました。	6ヶ月毎

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
R02	年度	642	146
R03	年度	747	106
	上半期	801	54
R04	下半期	862	62
	年度	862	116

障害種別•就業別

1十日 [三3.1 70][70]								
	身体		知的		精神	その他	合計	
		重度		重度	个月个中	ての利田		
在職中	45	23	297	95	206	8	556	
求職中	15	6	69	17	135	7	226	
その他	5	3	45	11	29	1	80	
合計	65	32	411	123	370	16	862	

1)出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	622	42	664
同一圏域内	171	18	189
その他	8	1	9

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、 高山村、小川村、坂城町

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	9	8	17
職業センター	0	1	1
特別支援学校	2	25	27
就労移行	13	12	25
福祉施設	7	3	10
行政	3	4	7
直接利用	7	4	11
その他	13	5	18
合計	54	62	116

3) 相談・支援(システム上)

3) 相談 久波(シハ) 四上/					
年度	6,124				
年度	7,527				
上半期	4,518				
下半期	4,176				
年度	8,694				
	年度 年度 上半期 下半期				

4) オンライン支援件数

		件数
	上半期	17
R04	下半期	37
	年度	54

5) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
212	274	259	242	231	270	212	223	226	227	189	259	2,824

〇分 析

・新規相談について

R4年度の新規相談は164件でした(上半期:85件、下半期:79件)。相談の内訳は求職中:81件、在職中:43件、実習22件、学生18件でした。そのうち新規登録に繋がったケースは116件でした。求職者では普通学校・短大・専門学校の生徒の相談が増加しました。また在職者では就労定着支援からの引き継ぎのケースが多くありました。若い年代やブランクがあり就労準備性が整っていない方の相談では関係機関とも連携をしながら、福祉サービスの利用も含めてご本人が気づきを持てるように支援を行いました。在職者からは転職をするか働き続けるか迷っている相談が多くあり、就業と定着の両面から支援を行いました。

・登録者について

R4年度末時点でのセンター登録者は862名でした。新規の相談者に対しては面談を重ねながら本人・家族の意向を聞き取り、必要と感じていただいた時点で登録をしました。相談内容に応じて委託相談員やその他関係機関を紹介するケースもありました。

・生活面について

福祉サービス利用に繋がった相談は18件(就労移行9件、A型5件、B型4件)です。生活支援ワーカーによる相談(延べ1,015件)については、「就労(25.34%)」、「不安解消・情緒安定(19.78%)」、「家族関係・人間関係(15.56%)」の相談が多い状況にありました。求職者では一般就労へ向かう不安を聴き取ったり、福祉サービスの見学同行等を行いました。在職には情緒面や人間関係の相談についてご本人の希望を丁寧に聞き取り働き続けられるよう支援しました。

・相談支援件数について

3) について…延べの相談件数を記載しました。面談・訪問のみでなく、電話での対応が多くありました(昨年比: +1,167件)。4) では、オンラインでの支援件数を記載しました。定着の面談や支援会議、在職者交流会等でZOOMを使う機会がありました。5) では月別相談者の実人数を記載しました。昨年度より実人数で200名以上利用が増えました(昨年比: +223名)。

2. 実習狀況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率				
R02	年度	115	4	72%				
R03	年度	131	1	56%				
	上半期	45	0	29%				
R04	下半期	64	0	74%				
	年度	109	0	51%				

(延べ件数)

(実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

	上半期	5
R04	下半期	19
	年度	24

4. 個別支援計画作成件数

	上半期	20
R04	下半期	32
	年度	52

〇分 析

・職場実習について (目標値:実習斡旋件数125件)

過去2年間の平均実習数は123件で、今年度は109件でした(昨年比:-22件)。短期トレーニング利用の実人数は62名で、うち32名が就職となりました(移行率51%)。体験的な実習として実施した方は3名でした。109件のうち48件が1回の実習で終了しました(44%)。同一企業で複数回実習を行う方が昨年と比べて少なかったことが実習件数減少の要因と考えられます。職場実習開拓件数は39件でした。ハローワークと連携して開拓した企業は3社で、うち1社で職場実習を行い2名が就職しました。

・一般就労に向けたアセスメント、個別支援計画の作成について

R4年度のアセスメント件数は24件で、個別支援計画の作成件数は52件でした。センター内でのツールを使ったアセスメントや実習中の様子をアセスメントしてご本人へフィードバックを行いました。個別支援計画を作成することで本人と希望を確認しながら目標を共有して支援を行いました。件数、精度ともに向上していけるようセンター内で検討していきます。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問	
R02	年度	79	942	
R03	年度	71	911	
	上半期	48	472	
R04	下半期	18	450	
	年度	66	922	

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

	身体	知的	精神	その他	合計	
業務内容	2	36	24	0	62	
対人関係	1	20	24	0	45	
生活面	1	45	56	0	102	
その他	0	0	6	0	6	
合計	4	101	110	0	215	

○分 析

・就職について(目標値:就職件数72件、就職率78%)

過去2年間の平均就職件数78件に対して、今年度は72件でした(一般66名、短期1名、A型5名)。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め54名でした(一般49名、A型5名)。新規相談の中ですぐに就職に向けて動くことができる求職者が少なかったこと、体調が悪化して離職した方が福祉サービスを次の選択肢とすることが多かったこと、就労移行等関係機関の利用者がセンターの実習制度を利用して就職する件数が少なかったことも就職件数減少の要因と考えられます。求職者の掘り起こしが次年度以降の課題となっています。新規求職者数80名に対し就職率は82.5%でした。

・定着支援について(目標値:1年経過後の定着率90%)

過去2年間の平均職場定着訪問件数は926件で、今年度は922件(昨年度比:+11件)でした。R3年4月~R4年3月に就職をした方の1年経過時の定着率は93%でした。また厚労省は精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としていますが、今年度は38%(352件)でした。特に精神障害の在職者からは電話やメール面談が多く、職場訪問だけなく話をじっくり聞くことで本人が安定し、定着に繋げることができました。

また就労定着支援事業所からの引き継ぎが18件ありました。半年前に連絡をいただき面談同席や職場訪問に同行をして、ご本人が不安にならないよう引き継ぎを進めました。

・主任職場定着支援担当について

職場定着が困難な事例の相談件数は215件でした。精神障害の病状が悪化し就労の継続が難しいケースが多くありました。企業と相談をして休職期間をいただき、ご本人の体調を整えてから復職を目指すよう調整をしました。やむを得ず退職をするケースについては、双方にとっていい終わり方ができるよう配慮をしながら退職の手続きを進めました。企業からの相談については、42社の企業から64件の相談がありました。本人の体調不良により出勤率の悪化が課題があり、今後の雇用に不安を抱える相談が多くありました。時間や業務内容の見直し、休職から復職支援などの調整を図ることで職場定着に繋げることができました。